

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2011

課題番号：19720187

研究課題名 (和文) 近代東北アジアにおける中国系移民の受容と排除

研究課題名 (英文) Acceptance and Exclusion of Chinese Immigrant in Modern Northeast Asia

研究代表者

上田 貴子 (UEDA TAKAKO)

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00411653

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国史・移民史・東北アジア史・地域交流史

## 1. 研究計画の概要

- (1) **概要** 近代東北アジアにおける中国系移民の受容と排除を対象として調査分析を行う。
- (2) **対象** 対象となる移民は山東半島北岸を出身地とする山東幫といわれグループである。
- (3) **時代背景** 彼らは 20 世紀前半にロシア・中国東北地域・朝鮮半島・日本大阪神戸・上海などを結び貿易に従事したが、20 世紀後半には彼らの立場は弱くなっていった。彼らが移住した先でどのように地歩を固め、立場を弱めていくのか、ホスト社会側はどのように彼らを受容し、排除したかについて調べる。
- (4) **意義** 東北アジアにおける地域間連携に中国系移民が果たした役割を検討する。また彼らの存在を通じて、東北アジアにおける中国の社会的経済的影響力を測る。

## 2. 研究の進捗状況

- (1) **移民送出地での調査** 山東半島北岸でのフィールドワークにより、移民の安全確保がいかんされるかを調べた。
- (2) **移民先での調査** 瀋陽、ウラジオストク、上海、大阪、神戸などの移民先での同郷団体の活動についての調査を行い、移民先で一定の地歩がいかん確立されるか、また立場がいかんなる時に弱くなるかについて調べた。
- (3) **比較対照となる移民の調査** 上海、台湾、神戸などで山東幫以外の移民

の状況について調査を行った。

## 3. 現在までの達成度

当初明らかにしようとした問題について 7 割程度が明らかになったといえる。具体的には、どのような条件下で移民先で受容されるか、また排除されるかについて事例が明らかになった。

- (1) **受容について** ニッチ的な商品とサービスを提供することで貿易商として、移民先に受け入れられる点を明らかにした。
- (2) **排除について** 政府の後ろ盾をもつ対抗勢力が力をもつことで、排除される。

## 4. 今後の研究の推進方策

以上の成果をふまえ、排除にたいして移民側がいかなる対応をするのかについて明らかにしていく。具体的には以下を対象として行う。

- (1) 上海山東会館の活動  
(2) 奉天同善堂の活動  
(3) 大阪北幫公所、山東同郷会の活動

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 6 件)

上田貴子「關於山東移民送出的變遷」現代中国社会變動與東亞新格局、2007 年 8 月 27 日、中国 南

開大学

上田貴子「商工業者からみる哈爾濱の中国人社会」  
研究セミナー「ハルビン 異種混交の街」2008年  
7月12日東京外国語大学

上田貴子「東北アジアにおける中国人移動の変遷1  
860-1945」現代「中国」の社会変容と東アジアの  
新環境 第三回国際シンポジウム、2009年8月26  
日、JICA大阪国際センター

上田貴子「移民の成功戦略 東北アジアにおけ  
る中国人移民と日本人移民の比較から」、日本移民  
学会ワークショップ「アジア移民研究の現在・課  
題・方法 『移民・移動研究』への比較と交差」、  
2009年9月12日、神戸中華会館

上田貴子「満洲」の中国化 19世紀後半から 20  
世紀前半期の奉天地域アイデンティティの形成、  
東アジア歴史研究者フォーラム、2009年11月7  
日、韓国 ソウル グランドヒルトン

上田貴子「僑民から居民へ ハルビンにおける中  
国系移民」日本華僑華人学会大会、2009年11月  
14日、大阪大学中ノ島センター

〔図書〕(計3件)

西村成雄・田中仁編『中華民国の制度変容と  
東アジア地域秩序』汲古書院、2007年(執筆  
87-109頁)

蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際  
社会学』不二出版、2008年(執筆 201-216  
頁,313-342頁)

安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立』名古  
屋大学出版会、2009年(執筆)